

# 北部病院だより 第110号(2017.8)

## Showa University Northern Yokohama Hospital

【巻頭言】放射線科診断医をご存知ですか

【医師の配属・異動・退職、診療統計】

【栄養科だより】

【患者さんからのご意見・ご要望】

【TOPICS】大腸がんについて

【TOPICS】研修相談会について

【お知らせ】今後のイベントについて

【編集後記】



山の日、いつから施行されたかご存知ですか？

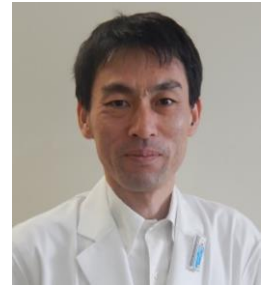
2014年に制定され2016年に施行された日本の国民の祝日の一つです。日本山岳会をはじめとする全国「山の日」協議会加盟諸団体や既に「山の日」を制定していた地方自治体、その他山岳関係者や自然保護団体等からの意見を受け、山の形をイメージする「八」と山の麓の木々をイメージした「11」で8月11日に決定されたそうです。また、施行を受け2016年より国民の休日が年間16日となりました。

# 巻頭言 ～放射線科診断医をご存知ですか～

こんにちは。放射線科診療科責任者の藤澤英文です。

この巻頭言をいま読んでおられる皆さんは放射線科医師についてどの程度ご存知でしょうか？放射線科は放射線診断（画像診断ともいいます）と放射線治療が2つの大きな柱で、それぞれを専門医が担当しています。癌の放射線治療を専門とする放射線科治療医については放射線治療を受けたことがない方でもある程度想像が付き、その想像はおそらく正しいでしょう。

それでは放射線科診断医（画像診断医）の仕事や役割はどの程度イメージできるでしょうか。外来診療を行っておらず一般の方と接触する機会が少ないので、イメージしにくいかもしれませんね。単純写真、CT、MRI、シンチグラフィやPET 検査などの核医学検査などの検査画像を見て、それがどのような病気であるのかを診断することが診断医の大きな仕事で、このことを画像診断といいます。主治医が疑った病気が正しいのか、別の疾患が考えられるのかを判断することになり、当初から放射線診断が発達した米国で画像診断医は「Doctor's doctor」とも呼ばれています。私たち放射線科医師による画像診断はレポートにして依頼医師に報告されます。北部病院では2001年の開院当初から放射線電子情報システムと電子カルテによる運用を行っており、画像診断レポートをすぐに電子カルテで確認することができます。日常の画像診断業務以外にも、各診療科とのカンファレンスやコンサルテーションなどで画像診断医として意見を述べることで多くの場面で治療方針決定に関与しています。患者さんから直接は見えない裏方ですが、適切な画像診断のもとに適切な治療が速やかに行われるような、より良い医療に寄与すべく医局員一同励んでおります。



（放射線科）

藤澤 英文 准教授

## QIVRとは・・・

放射線科診断医のもう一つの仕事はIVR (Interventional Radiology: インターベンショナルラジオロジー) です。日本語では「画像下治療」と訳しますが、「アイ・ブイ・アール」とか「インターベンション」などと呼称されることが多いです。IVRは大きく体を切らずに様々な臓器や血管の治療ができる手技で、体への負担が圧倒的に少ないという特徴を持っています。カテーテルを用いた腫瘍の治療、外傷や術後などにおこる体内出血の止血術、内臓動脈瘤や静脈瘤の塞栓術、詰まった血管の拡張術、肺腫瘍など体の深部の組織を採取する画像ガイド下生検、深部にできた膿に対する画像ガイド下ドレナージ、癌の画像ガイド下ラジオ波治療、中心静脈ポート留置術、腫瘍で弱くなり痛みとなっている骨に特殊なセメントを注入する骨セメント治療などが北部病院ではよく行われているIVR手技です。最近では子宮筋腫の動脈塞栓術が保険で行えるようになりました。

画像診断は「頭のとっぺんから足の先まで」ありとあらゆる膨大な疾患が対象となり、なお且つ画像診断装置はまさしく最先端医療機器として日進月歩で進歩しているので、専門医になってからも日々の研鑽がとても大切で、業務内容も学問的にもやりがいがあります。皆さんがCTやMRI検査を受けられたときは、画像診断の専門家である放射線科診断医が診断を行っているということを思い出してください。IVRも低侵襲治療が注目される現在ではさまざまな医療の領域で欠かせない存在となっており、体に優しい手技であることをひとりでも多くの方に知っていただきたいと思います。



# 医師の配属・異動・退職

## 新規配属医師

2017年8月

### 【附属施設より】

- ・福井 智康 (内科) 藤が丘病院 糖尿病・代謝・内分泌内科より
- ・砂川 恵伸 (臨床病理検査科) 大学病院 臨床病理検査科より
- ・濱田 和幸 (内科) 大学病院 腫瘍内科より
- ・杉下 友美子 (こどもセンター) 江東豊洲病院 こどもセンターより
- ・高橋 郷 (耳鼻咽喉科) 藤が丘病院 耳鼻咽喉科より

### 【海外留学戻り】

- ・土屋 静馬 (救急センター)

## 異動・退職医師

2017年8月

### 【配置転換】

- ・岡本 怜士 (救急センター ⇒ 整形外科)

### 【海外留学】

- ・釋尾 智春 (麻酔科)

### 【退職】

- ・原 義明 (消化器センター)
- ・後藤 聡子 (麻酔科)

## 診療統計

### 前年同月比 ( )内は1日平均

診療実日数 2016年6月(入院:30日・外来:26日)、2017年6月(入院:30日・外来:26日)

	入院患者数	外来患者数	救急搬送数	手術件数
2016年6月	17,806人(593.5人)	29,142人(1,120.8人)	406件(13.5件)	767件(34.9件)
2017年6月	18,308人(610.3人)	28,820人(1,108.5人)	419件(14.0件)	689件(31.3件)

## 栄養科だより～7月行事食について～



### 【ちらし寿司、七夕清汁、小松菜のお浸し、七夕ゼリー】

7月7日は、七夕にちなんだ行事食を提供させていただきました。七夕といえばそうめんを食べる風習がありますが、この風習は中国では1000年以上前から存在していると言われております。小麦粉からできた素餅(さくへい)という料理を7月7日にお供えすることで、1年の無病息災を願うというものです。これが日本にも伝わり、後にそうめんとして食べられるようになり、現在ではそうめんを織姫の織る糸や天の川の流れて見立てて、七夕祭りにも親しみのある食材となりました。今回の七夕清汁では、そうめんに星形のオクラを添えて七夕の夜空の天の川をイメージしました。

また、蒸し暑い日が続いておりますので、酸味でさっぱりと食べられるよう、ちらし寿司としました。デザートは織姫と彦星のモチーフにしたゼリーをご用意しました。

食事は元気の源。しっかり食べて夏本番の暑さを乗り切る体力をつけたいですね。

栄養科 星川麻美・中島未来

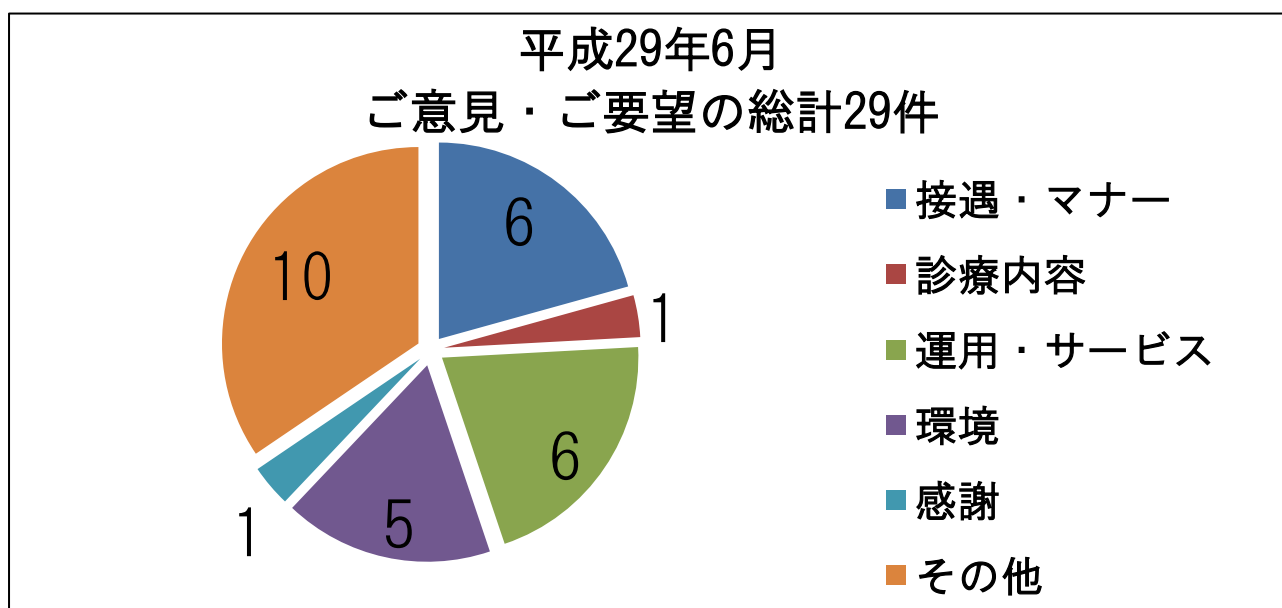
# 患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんよりいただきましたご意見・ご要望に関しましては、院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<p>&lt;運用・サービスについて&gt;            がんサロンに出席しました。            レクチャーは休職中の情報として大変役立つものでした。有意義な会なのでもっと出席者が増えるよう工夫してほしいです。懇親会も看護師の方が丁寧に質問に答えてくださいました。            患者同士の情報交換もしたいので出席者が増えると嬉しいです。</p> <p style="text-align: right;">他計 5 件</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。            がん拠点病院推進室運営委員会で以下のように検討しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既存のサロン案内用リーフレットを見直し、利用しやすい内容に変更する。</li> <li>2. 見直したいリーフレットを各外来受付等の患者さん・家族が手に取りやすい場所に置く。</li> <li>3. 医療者側からリーフレットを手渡しする体制を検討する。</li> </ol> <p>また、区内のクリニックへサロンの存在を知っていただき、希望される方にリーフレットを渡していただくことや区内の町内会へポスター掲示を依頼するなど広報活動を行っていきたいと思います。</p>
<p>&lt;環境について&gt;</p> <p>病院が暑すぎます。            もう少し涼しくできないでしょうか。</p> <p style="text-align: right;">他計 4 件</p>	<p>ご迷惑をおかけいたしまして大変申し訳ございません。            昭和大学では、夏季に環境省が中心となって実施されている環境対策などを目的としたクールビズ（衣服の軽装化）や地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>を削減するため、冷房時の室温を28度にするなど昭和大学一丸となって環境対策に取り組んでおります。</p> <p>今後は、季節や天候に応じて臨機応変に対応させていただきますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。</p>





## TOPICS ～大腸がんについて～

我々昭和大学横浜市北部病院消化器センターは「大腸がんでは死なせない」をスロークーガンとしております。大げさではなく大腸がんは早期に発見すれば100%治る癌だからです。それなのに大腸がんによる死亡率は、最新のがん死亡統計によりますと、大腸がんは2014年のがん死亡率では全体で2位（男性3位、女性1位）（2016年国立がんセンター統計より）と近年増加しております。これは一体なぜでしょうか？

大腸がんは下痢や便秘、腹痛や血便などが自覚症状です。しかし、症状が出る頃にはかなり進行していることが多く、早期発見をするためには自覚症状のない状態で検査をしていただくことが必要になります。大腸がんの健康診断では便潜血検査が行われることが多いですが、早期がんや小さくても性質の悪い凹んだ癌（陥凹型癌）は潜血検査では引っかかりにくく、直接大腸をみる内視鏡検査を行っていただくのが一番良いと考えています。症状がなくても40歳を超えたら一度大腸内視鏡検査を受けていただければ、その後大腸がんで死亡する可能性はぐっと低下します。

### ～内視鏡検査について～

ひと昔前は大腸内視鏡検査は「お産よりつらい検査」と患者さんより敬遠されてきましたが、当施設の内視鏡検査は痛みが極力少ないカメラの挿入法（軸保持短縮法）で挿入し、併せて鎮静剤を積極的に使用して苦痛を極力抑えた検査を心がけております。大腸の中をきれいするため、2Lの腸管洗浄液を服用するご負担はおかけいたしますが、検査自体は治療などがなければ、10～30分程度で終了します。患者さんによっては「胃カメラより楽だった」との感想をいただくこともあります。

大腸ポリープが発見された場合、治療が必要なポリープかどうかを見極める診断が必要です。我々は100倍でズームできる拡大内視鏡を使って表面の構造を見て、それが癌かどうかを診断しています（ピットパターン診断）。またポリープを見つけたら、その場で治療を行えることも内視鏡の強みです。腺腫、あるいは早期がんであれば、内視鏡で切除できれば治療は完了いたします。万一進行がんが見つかった場合は内視鏡的に切除することはできませんので、お腹を切ってがんを取り除く外科的切除が適応となります。当院ではお腹の傷が小さくすみ、負担の少ない腹腔鏡での手術を極力行っており、より早期の退院や社会復帰が可能となりました。手術のクオリティーも大切ですので、取得が非常に難しい日本内視鏡外科学会の技術認定取得者を多数有しております。このように当センターの正確な診断と技術力が評価され、近隣にお住まいの方だけではなく他の一般病院や大学病院で治療が困難とされた紹介患者さんも多くご来院いただいております。みなさまのご支援のおかげで昨年は大腸がん内視鏡治療数は全国2位(351件)、大腸がん外科手術件数も神奈川県1位、全国9位の326件(腹腔鏡手術284件)(週刊朝日MOOK「いい病院2017」より)、内視鏡件数は約15,000件と日本屈指の症例数となりました。

さらに当院では大腸がんの診断、治療の発展のために積極的に臨床研究も行っています。我々は内視鏡で細胞レベルまで観察できる超拡大内視鏡を用いたコンピューターによる自動診断(AI診断)の開発・臨床応用を進めています。この自動診断については、「革命的な内視鏡、革命的診断法」として世界でセンセーションを巻き起こしました。現在、この自動診断機器の開発は国(日本医療研究開発機構(AMED))より支援を受け、当センターが中心となって多施設共同研究開発を行っている最中です。

とにもかくにも検査を受けていただかないと癌があるかどうかは分かりませんが大腸がんは早期に発見すれば決して怖くない癌です。検査をするのはおっくう・・・、かもしれませんが、苦痛の無い内視鏡検査ですので、是非一度お受けください。



〈消化器センター〉

工藤 進英 センター長



## TOPICS ～研修相談会について～

平成 29 年 7 月 7 日（金）に将来の初期臨床研修医を志す 17 名の学生を囲んで、研修相談会を実施いたしました。

6 月 3 日（土）に開催された病院見学会に引き続き、もっと当院のことを知ってもらおうと、昨年入職した研修医や豊富な指導経験をお持ちの上級医の先生方にお越しいただきました。

参加した学生は、自由な雰囲気の中で当院の初期臨床研修への期待や不安をぶつけ、近い未来の初期臨床研修医としての自分の姿をとらえることができたようです。

また、8 月より研修医採用試験が行われます。試験における不安も払拭できたようです。



〈研修医相談会の様子〉

## お知らせ ～今後のイベントについて～

～災害対策訓練～

9 月 1 日（金）の防災の日に合わせて、職員を対象とした災害対策訓練を実施いたします。災害時の各部署での初動の確認、迅速な本部の設営・運営と防災意識の向上の為にまいります。

～インターンシップ・実習等～

- ・8 月 1 日（火）に昭和大学保健医療学部の 1 日体験入学
- ・8 月 21 日（月）・22 日（火）に高校生を対象とした横浜北地区インターンシップ
- ・9 月 11 日（月）から 9 月 22 日（金）まで昭和大学の 1 年生の初年次体験実習を受け入れます。

大学病院は「教育病院」として幅広い医療関係者の教育・研修の場となっております。ご迷惑をおかけすると思いますが、災害対策訓練と併せてご理解とご協力の程、宜しく願いいたします。

～ロビーコンサート～

8 月 31 日（木）と 9 月 22 日（金）の 19 時より 1 階会計前にて実施いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

### ～編集後記～

日差しの強い時期になりました。「日焼けした小麦色の肌＝健康」といわれて、日焼けした真っ黒な子供たちが走り回っていたのも昔の話です。「美白」がもてはやされ、紫外線の身体に対する様々な影響が分かるようになり、紫外線は悪者扱いになることが増えています。我々の皮膚は紫外線を浴びると色素を作るメラニンという物質が合成され、皮膚が褐色になったり、ときにはシミを作ったりします。

メラニンが多いほど皮膚は黒くなりますが、皮膚がんの発生率は下がると言われ身体には有益な作用もあります。また皮膚に紫外線が当たるとビタミン D が産生され、それには免疫を強くしたり、ある種のガンに対する抗がん作用や認知機能障害リスクの軽減の効果も報告されています。ビタミン D 不足は骨粗鬆症などの原因になりますが、高齢者だけでなく最近では小児でも報告されています。適度な日光浴を行い夏の日差しと上手に付き合っ健康な生活を送りましょう。

（こどもセンター 准教授 曾我 恭司）



北部病院だより 第 110 号

平成 29 年 8 月 1 日発行

発行責任者 門倉 光隆（昭和大学横浜市北部病院長）

編集責任者 緒方 浩顕（広報委員会 委員長）

発行 地域中核病院 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。